

が問われる中で、成果がなかなか出ないことというのをやり続けるのはなかなか難しいということとは皆さん認識があらわれるかなと思います。であれば、これまで実施してきた事業の成果や費用対効果というものを評価する。評価した上で改善ができるものは改善していく、またはやってみる。それでも成果が出ないものは思い切って事業を変えて、新しい挑戦をしてみるというような前向きな事業計画、戦略が必要だと思っております。そのような事業を進めていくことが重要だと思いますので、ぜひ今回一般質問で取り上げたシイタケ産業や磯焼け対策に限らず、各部局におかれましては、いま一度各事業の全体像やプロジェクトの戦略を見直していただいて、具体的な目標設定とか実行に向けた事業計画づくりというのを実施していただいた上で、市民に開示と一緒にやっていこうというような機運をつくっていただきたいと思いますし、私たち市議も一緒に考えていきたいと思っております。ぜひ、市長、副市長、そして各部局の部長さんが対馬市のプロジェクトリーダーとしてその職責を担っているわけですから、各部局の職員の皆さんや関連する事業者、市民がよしやってやるぞというように思えるような事業運営をしっかりと進めていただきたいと思いますので、ぜひよろしくお願いします。

これで、私の一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（春田 新一君） これで、吉野元君の質問は終わりました。

○議長（春田 新一君） 暫時休憩します。再開は午後 1 時 5 分からといたします。

午前11時51分休憩

午後 1 時05分再開

○議長（春田 新一君） 再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。7 番、安田壽和君。

○議員（7 番 安田 壽和君） 皆さん、改めましてこんにちは。会派對馬の風の安田壽和でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

5 月 1 8 日に執行されました対馬市議会議員一般選挙におきまして、市民の皆様の御支援を頂き、ここに議会の席を賜りましたことに対し、ここからではございますが深く感謝を申し上げます。

今回の選挙において、私の政治信条として「市民の暮らしの声を市政に反映し、市民の皆様と共に創るしま（対馬）づくり」を目指し、市民の方々に訴えてまいりました。この選挙戦を通じて、市内各地において市民皆様から様々な御意見、御要望をいただきましたので、市民皆様の声を市政に反映すべく市政に対する諸課題については、今後の議員活動において取り組んでまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、通告に従って質問をさせていただきます。

まず、1点目は、地域包括ケアシステムについてお尋ねをいたします。

第2次対馬市総合計画の後期計画で示されておりますへき地からの移動手段の確保と買物支援については、公共交通機関の不足や運転免許返納後の移動支援が深刻となっており、後期高齢者の割合が、対馬では全体の約39%を占める状況で、将来ますます高齢化が進む中で、市長も未来のしまづくりを誰一人取り残さない5つの未来創造戦略を掲げてある中、安心して安全な老後のための地域包括ケアシステムの充実について、高齢者の移動支援に関しては、市長もこのことは十分認識された上で、この問題に取り組んでいただいているものと考えておりますが、どのような施策・対策を考えておられるかお伺いいたします。

続いて、通告の2点目の豊玉高等学校の存続についてですが、対馬市内に県立の高校が3校、厳原、豊玉、上対馬に配置されておりますが、豊玉高校においては、近年生徒数の減少に伴い入学生も減少し、豊玉高校の存続が難しい状態となっております。

このような状況が続くと県教育委員会の統廃合となり、豊玉、峰町管内及び周辺にとっては高等教育の場がなくなるということになって、大変危機感を持っております。

このような状況を鑑み、地域有志の方々の熱意により、平成24年に豊玉高校存続に向け一つの取り組みとして、豊玉高等学校支援会議を立ち上げられ、学校、家庭、地域が一体となって、現在も様々な活動が行われている状況にあります。

また、地元豊玉町においてもこの高校は、豊玉町の中心部に位置しており、高校がなくなるとことは地域経済及び地域の活性化に向けても重要な問題でありますので、市長のお考えを伺います。

続いて、通告3点目ですが、豊玉町管内の市道仁位貝鮎線の道路改良ですが、この路線の改良については、作元前議員さんも積極的に取り組んでいただき、現在、継続事業として実施されておりますが、近年、韓国から和多都美神社、神話の里自然公園への観光客も増加傾向にあり、多い日には大型バスが何十台と通行する路線であります。

また、嵯峨、糸瀬、佐志賀、貝鮎地区においては、対馬の基幹産業である真珠養殖が盛んに行われており、この職場に自家用車で通勤される方も多く、交通量の多い路線でありますので地域住民の方々も一日も早い完成を望んでおられますので、現在までの進捗状況について市長に伺います。よろしくお願いいたします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 安田議員の質問にお答えいたします。

初めに、過疎化・高齢化の顕著な地域における移動手段の確保の進捗状況についてでございますが、まず公共交通につきましては、令和5年度に、令和6年度から令和10年度までの対馬市地域公共交通計画を策定し、その計画に路線等を位置づけ、利用者のニーズに対応するため路線

バス、市営バス、コミュニティバス、スクールバス、混乗や乗り合いタクシー等、その都度、対馬交通様やタクシー協会様と協議を重ね、現在、51路線を運行し、各地域の移動手段の路線確保に努めております。

人口減少に伴う過疎化・高齢化が顕著な地域の移動手段の確保は、重要課題であると捉えておりますが、現在の公共交通の路線を維持するための人材の確保も課題であります。

また、利用者が少なくほとんどのバス路線が赤字路線であり、公共交通の運営をする上で財政負担が増えている状況であることから、路線の新設、統廃合を含め、対馬市地域公共交通活性化協議会及び検討委員会に諮った上で、地域公共交通施策に取り組んでいるところでございます。

交通計画を策定する上で、市民を対象にアンケートを実施し、地域の移動手段を把握するため、通院・通学・買物等を含め移動手段で不便なことなどの意見を収集しております。

現在、利用者の利便性の向上を図るため、様々な意見を参考に対馬市地域公共交通利便増進実施計画を策定し、地域公共交通の持続可能な運行体制の構築に向けた準備を進めております。その中で、現行の縦貫線と枝線の接続ができていない運行時間を見直し、通院・通学・島外アクセスの円滑な利便性を図ることとしております。

現行の公共交通を維持しつつ、地域の自立的な運行など地域の状況に合わせた運行形態への移行を検討し、地域公共交通の資源を総動員した移動手段の確保、地域共同でサポートする体制を構築するため、関係機関と連携を図り取り組んでまいります。

次に、生活支援、買物支援等でございますけれども、この進捗状況についてでございますが、平成25年、国の地域包括ケア研究会では、地域包括ケアシステムの構築に当たり、独り暮らし高齢者や高齢者のみの世帯がより一層増加する中で、自助、互助による近隣の助け合いが必要であると整理しており、加えまして市町の少子高齢化や財政状況から共助、公助の大幅な拡充を期待することは難しく、自助、互助の果たす役割が大きくなることを意識した取組が必要と述べられております。

行政サービスにとどまらず、地域に必要なケアを支える体制が強く求められるとされたものであり、地域内の連携と近隣住民の助け合いが重要とされているものでございます。

本市では、生活支援への取組として、生活支援コーディネーター事業を実施しており、旧町単位で6つの第2層協議体を設置して、その中で地域において生活支援に取り組む36グループの発足と運営を支援してまいりました。

グループごとに取り組む内容は様々ではございますが、議員の御質問にございます買物支援では、第2次対馬市総合計画の後期計画におきまして、買物支援を行っている地域の数の目標を令和7年度6地域と定めて取組を行ってまいりました。

その成果として「ドライブサロンのってみんな唐崎岬号」をはじめとする6グループに、地域

の住民を診療所やスーパーへ送迎するなどの無償サービスに取り組んでいただいております、総合計画の目標値を達成することができました。これも生活支援に取り組む各グループや、そのメンバーの地道な努力によるものであり、心より敬意と感謝を表します。

また、令和3年3月から上対馬町、上県町、峰町の一部で、地元企業が買物支援サービスとして、移動販売を実施しております。そのほか厳原町、美津島町、豊玉町、峰町までの広範囲で、他の地元企業が宅配サービスを行っており、いずれも買物支援に大きく貢献していただいております、民間事業者の力も地域の持続には不可欠であることを強く認識するものでございます。

今後の展開でございますが、生活支援コーディネーター事業において、現在活動している36のグループの活動支援を継続してまいります。市報に生活支援の取組を発信する助け合い通信を掲載しております。この6月号で92回、本市の生活支援の取組を始めてから約7年半休むことなく継続して情報発信しております。

また、市内各地区で、住民座談会、区長・民生委員事業説明会を開催しており、その中で生活支援に取り組むグループの活動を動画で紹介しております。

今後も、生活支援への取組を市民の皆様に積極的に発信していき、新たな仲間を増やしてまいります。生活支援は誰もが安心して暮らせるまちづくりのためには、ますます重要となってきております。本市総合計画や介護保険事業計画にも、引き続き位置づけをして取組を継続してまいります。

次に、県立豊玉高等学校の存続に向けた対策・取組についてでございます。

深刻な少子化の進行により、県立豊玉高等学校の生徒数は減少の一途をたどっており、このままでは地域の明かりが消えかねない厳しい状況でございます。

県教育委員会では、来年度にも県立高校再編に向けた大綱を策定する予定であり、授業料の無償化により島外の高校へ流出するおそれも懸念されることから、生徒・保護者からも選ばれる魅力的な高校づくりが喫緊の課題だと認識しております。

特に、県下の離島地域13校においては、全ての高校で定員割れが生じており、実際の入学者数は募集定員に対し半数近くにまで落ち込んでいる状況でございます。このような厳しい現状の中、本市は市内3校の高等学校の存続と魅力向上を目指し、生徒の学力向上と就学経費の負担軽減を目的とした「対馬市高等学校魅力化支援補助制度」を設けております。

具体的には、学習合宿に参加する生徒及び帯同教員1人につき、1泊当たり2,000円の宿泊費の補助、学習合宿におけるバス借り上げ料の2分の1を補助することで、生徒が経済的負担を感じることなく学習に専念できる環境を確保しております。加えまして、学力向上のためのオンライン受講料の2分の1を補助することで、生徒一人一人の多様な学習ニーズに応え、将来の選択肢を広げる機会を支援しております。

また、対馬市高等学校文化スポーツ活動支援事業補助制度として、部活動の遠征や合宿に要する経費の一部を助成しております。さらに、生徒のスポーツにおける競技力の向上を図るため、専門的な指導を受けられる環境を整えております。

県立豊玉高等学校においては、生徒が長崎県遠隔教育センターの各教科の専門教員による遠隔授業を受講できるよう、本市が遠隔授業受信教室に1人の支援員を配置し、授業のサポートを行っております。これにより地理的制約による学習機会の不公平等を解消し、都市部の高校に引けを取らない専門的な学びが行えるよう、学習環境の下支えを行っております。

最後に、市道仁位貝鮎線の改良計画についてでございます。

本路線は、市道板糸瀬線を経由し、国道382号線へ通じる路線であり、下島方面から対馬市の代表的な観光地である和多都美神社、烏帽子岳方面へアクセスする最短ルートであるため観光コースとなっており、大型の観光バスやレンタカーの往来が多く、交通量が増加している状況でございます。しかしながら現状の幅員は狭小で、線形・縦断勾配も悪いため、地元住民が通勤通学また買物等で利用する際、バス等と対面すると離合時に支障を来している状況でございます。

このため安全性を確保するとともに、交通の円滑化を図るため社会資本整備総合交付金を活用し、令和3年度より事業に着手しているところでございます。

御質問の進捗状況についてでございますが、現在の総事業費を15億円として計画しており、事業費ベースで申し上げますと令和7年度末で35%の進捗率となっております。また完成予定につきましては、現計画では令和12年度を目標としておりますが、現場は急峻な山の切土、現道を供用しながらの施工と制約も多く、かなり厳しい条件となっております、現時点で計画どおりの進捗状況とはなっておりません。しかしながら、この重要性は十分認識しておりますので、早期完成を目指し事業を進めてまいります。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 7番、安田壽和君。

○議員（7番 安田 壽和君） ありがとうございます。いろいろな回答をいただきまして、私が言いたいことを市長が先に言っていただいたので、あまりまた質問をすることがなくなってまいりましたけれども、第1問目について、まず、この交通の不便対策として、もう少し私たち地域住民も先ほども言われたように、地域で何か自分たちで支援できるような形の助成とか、いろんなものの施策をもう少し考えていただけたらということをお願いしたいと思います。

あと、先ほど言われた千尋藻のおろしかの里のほうもサロンという形で送迎、美津島町の病院とか買物等にもおろしかの里の名称として、おろしかの里で千尋藻地区でやっていることなんですけれども、そういう形でやっています。唐崎岬号についてもちょっと詳しく言いますと、2路線で行っていますので、1路線は豊玉診療所から廻方面、あと1路線については豊玉診療所から

貝鮒方面へという路線をやって、菓をもらうまでの間にスーパー及び中対馬振興部、金融機関、農協等へも高齢者等を積んで、買物等にも支援をしているような状況ですので、またそこら辺も御理解いただきながら、また幾らかの助成がしていただければ助かります。

あと1点やっていることが、私たち「対馬ほほえみ会」という任意の団体なんですけれども、子どもたちに吹奏楽を体験させるために送迎を雞知から豊玉の仁位の旧保育所までの間の送迎も往復をやっているような状況です。ですから今後、休眠預金の補助金が切れるということになれば、また自走で行っていかないといけないということがありますので、そこら辺を市長、何か方法がありましたらお聞かせいただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 先ほども答弁いたしましたように、地域の皆様の御協力があつてからこそ、このような事業ができていますものというふうに感謝を申し上げる次第でありますけども、ただ、現実的にこのボランティア精神だけでは存続が難しいのではないかなということは感じているところでございます。

そういうことで、今後どのような形であれば持続的な存続ができていくのかということは、関係者と共に知恵を出し合いながら、協議をしていければいいのかなというふうに思っておりますし、ほほえみ会の関係の分も恐らくこの休眠預金のほうも、いつの時点かではちょっと運営が難しくなる可能性もないわけじゃないというふうに思っております。

こういうことも含めまして、ここはまた今後の一つの研究課題としていただければなというふうに思っております。

以上です。

○議長（春田 新一君） 7番、安田壽和君。

○議員（7番 安田 壽和君） 前向きな御回答ありがとうございました。それについてはまた今後いろいろな協議の上で、前向きな話をまた御回答いただけたらと思います。ありがとうございます。

それで、新聞報道によりますと、国家公務員チームが昨日もお話があったとは思いますが、地域課題解決のために、自治体をサポートする政府の地方創生伴走支援制度で対馬市の担当として、外務省、環境省、国交省、3省から3名が担当で、2026年から取り組む仮称ですが、北部対馬アクションプランの作成を支援するとのこと。

ここの作成の中に、また一つ加えたいのが、株式会社エスプールグローバルが5年間で約40人の採用を計画して、オンライン窓口ほか庁舎や支所などにタブレットを設置し、オンライン上で住民に対応するサービスを運営していく会社が、対馬のほうへ立地へと記載されていました。このようなタブレットを、もし市のほうが協議をした上で置くようになれば支所とか本庁だ

けではなく、今度は郵便局等も協議をしながら、各郵便局が各地区にございますので、そこら辺にタブレットを置いて住民へのサービスを少しでも軽減していただけたらいいなと考えておりますが、ですから、この対馬全体を広い視野で見て、このプランの作成を早期に取り組んでいただきたいと考えておりますので、もし何かそういうことで、この国の公務員のチームのほうへ何か話をしてあるようでしたら、お聞かせいただければと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（春田 新一君） 副市長、一宮努君。

○副市長（一宮 努君） 地方創生ということで私の方からちょっとお答えさせていただきますけども、この伴走型支援の部分については、全国各自治体へ申し込んだ中で対馬市が認められた部分になりますので、テーマを設けて一応支援いただくということで、今回は北部地域のアクションプランということになっていますので、ほかのテーマを入れられるかどうかについては、今後協議していきたいと思っております。

基本的には、そのプランの伴走支援ということが主流になりますので、話をしていきながら可能な範囲で対応できれば、また支援をアドバイスをお願いしたいというふうに思います。

以上です。

○議長（春田 新一君） 7番、安田壽和君。

○議員（7番 安田 壽和君） ありがとうございます。そういうことで前向きにまた御検討いただけたら助かります。

市の財政等も大変厳しい状態というのは分かっておりますので、そこら辺、住民の目線で今後また検討をよろしく願いいたします。これで第1点目の質問を終わります。

第2点目についてなんですけれども、豊玉高校の存続についてですが、先ほども市長がおっしゃいましたように、県教育委員会は2039年の公立高校の定員を3分の1減らす必要があると試算をまとめて、本年度中に大枠となる大綱を示したいと考えて、単純に統廃合を進めるのではなく、ゼロベースで見直し、新しい学校をつくっていくという思いを前川教育長は新しく生むということで、新生という思いで再編に本腰を入れると新聞報道でされておりました。

豊玉高校も「関わる力、日本一豊玉高校」をキャッチフレーズで、6月21日大阪関西万博で海ごみ削減など4テーマで、海の課題解決について発表しました。先生方も一生懸命に生徒一人一人に指導していただいております。学校、PTCA、同窓会、支援会議、地域が一丸となって存続のために努力していかなければならないと思っております。

ぜひ、対馬市としても県教育委員会へ存続のための協議をお願いしたいと思っております。どうかよろしく願いいたします。2点目のこれはお願いということで終わります。

次、3点目についてなんですけれども、先ほど令和12年に完成予定ということですが、今までは烏帽子岳線が通行止めという関係で、バスの台数等も少しは少なかったかと思いますが、本

日から通行可能になり、さらにバスの台数も増える可能性がありますので、ぜひ少しでも早い完成をお願いしたいと思います。何かそこで御意見がありましたらお願いします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この件につきましては、担当部長のほうに答弁をさせたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（春田 新一君） 建設部長、原田武茂君。

○建設部長（原田 武茂君） 御質問のほうにお答えさせていただきます。

先ほど市長のほうからも申しましたとおり、令和12年度の完成を目指しておりますが、現時点で進捗のほうが35%と、こちらのほう計画どおりには進んでおりません。

この要因といたしましては、国の補助を受けて事業を実施しておりますので、市のほうからの要望が満額つかない年もございまして、35%という進捗になっている状況です。

答弁しましたように、今後も令和12年度完成を目指して要求をしておりますし、現場のほうを進めていきたいとは思っておりますけども、ここら辺を御理解を少しいただければなというふうには思っております。

よろしくお願いします。

○議長（春田 新一君） 7番、安田壽和君。

○議員（7番 安田 壽和君） すみません、ありがとうございました。ぜひ予定ということですが、少しでも早い完成をお願いしたいと思います。この件につきまして市の財政としても、先ほども言いましたように厳しい状況にあるとは思いますが、地域住民は一日も早い完成を待ち望んでおりますので、どうかよろしくお願いします。

時間はまだ残っておりますが、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（春田 新一君） これで、安田壽和君の質問は終わりました。

○議長（春田 新一君） 暫時休憩します。再開を1時55分からとします。

午後1時42分休憩

午後1時55分再開

○議長（春田 新一君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。1番、針谷広己君。

○議員（1番 針谷 広己君） 皆さん、こんにちは。新友会、1番議員の針谷広己です。

まずは、先の対馬市議会議員一般選挙におきまして、対馬の多くの皆様から御信託を賜り、当選することができました。改めて深く感謝申し上げます。